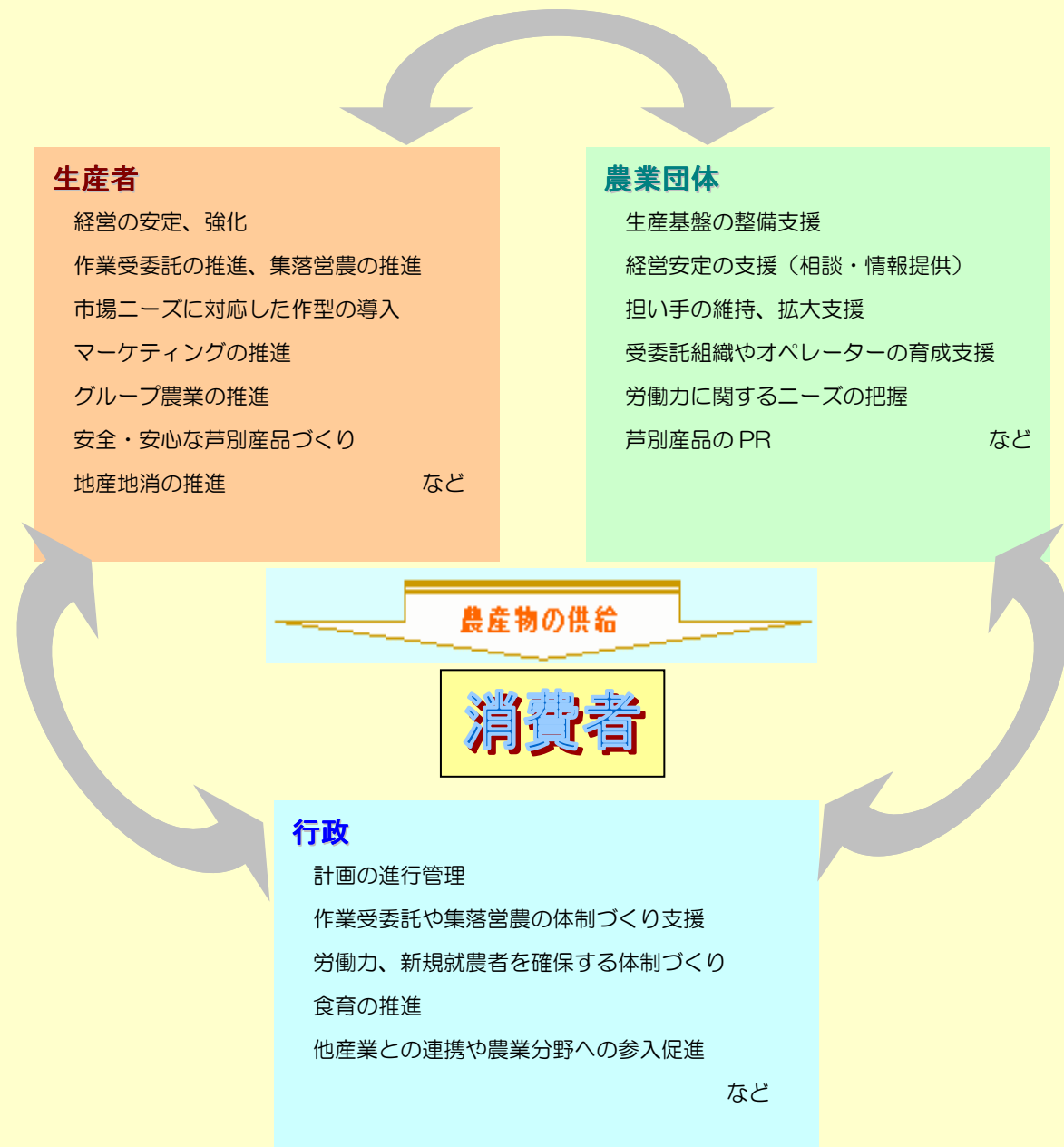


この計画は、生産者・農業団体・行政が一体となって推進していきます。



## 第3次芦別市農業振興計画

～概要版～



### この計画は

- 芦別市の農業・農村の振興に関する取り組み方向を明らかにしたものです。
- 生産者、農業団体、関係機関などの意見をはじめ、市場ニーズや国や北海道の動向など、芦別農業を取り巻く状況をふまえながら策定したものです。
- 芦別市、生産者、農業団体、関係機関など、芦別農業にかかわるすべての方々と共有する基本目標と、それぞれの立場で役割を担いながら進める取り組みを示しています。
- 農業分野だけではなく、他分野との協力・連携によって進めていく取り組みも示しています。また必要に応じて道や国に対して支援を求める内容についても示しています。
- 計画期間は平成18年度から平成27年度までの10年間です。農業をはじめ社会・経済情勢等の変化によって計画内容に大きな影響がある場合には見直すなど、弾力的に対応します。

### 第3次芦別市農業振興計画

～概要版～

平成18年3月

〒075-8711 芦別市北1条東1丁目3番地

芦別市役所 農林課 農政係

電話：0124-22-2111（内線243）

ホームページ：<http://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp>

平成18年3月

芦別市

これまで重点対策としてきた「担い手の育成・確保」と「農業所得の向上」をこれからもめざし、4つの基本方針に沿って、取り組みを進めます。

認定農業者の育成、「小規模生産農業」の経営の安定など、営農体系に応じた生産体制の確立が課題となっています。

芦別農業を支える労働者をどう確保していくかが課題となっています。

出荷時期の調整や他産地との差別化により、少量多品目生産でも評価される芦別産品を作っていくことが課題となっています。

ニーズが高く、拡大の可能性が高い道内市場に、どう対応していくかが課題となっています。

市場を維持しつつ、付加価値の向上や市場価格の底上げを図ることが課題となっています。

芦別農業への関心や理解を市全体でいかに共有し、取り組んでいくかが課題となっています。

他産業との連携や農業分野への参入を、芦別農業でも取り組んでいくことが課題となっています。

## 1 芦別産品を作る体制を強める

芦別産品を生産する基盤として、利用効率や自然生態系、景観の向上などをふまえながら、農地やその周辺環境整備を進めていくことが必要です。

また、経営の安定とともに、個々の農家の実情に応じた生産体制や労働力を充実し、それぞれの環境で生産性や効率性を高めていくことが必要です。

### (1) 農地の保全、活用

- ①農用地の流動化の促進
- ②基盤整備の推進
- ③農村景観の向上

### (2) 経営の安定、強化

- ①経営改善に関する相談、指導の充実
- ②中長期的な経営計画の策定指導

### (3) 営農体系に沿った生産体制の強化

- ①作業受委託の推進
- ②集落営農の推進
- ③野菜や花きの生産定着、拡大
- ④小規模生産農家※1の経営安定

### (4) 労働力の確保

- ①労働力に関する調査の実施
- ②労働力の確保に向けた体制づくり
- ③新たな就農者の確保

## 2 芦別農業を支える産品を作る

芦別農業の代表作物である振興作物と水稲について、現状での良さを活かしつつ、市場ニーズをふまえた品種や栽培、出荷に心がけていくことが必要です。

また、酪農・畜産についても安全面と品質の双方を向上していくことが必要です。

### (1) 農作物の生産振興

- ①稲作（売れる米づくり、芦別産米のPR）
- ②南瓜（品質の向上、収量の確保、出荷時期の調整）
- ③馬鈴しょ（収量の確保、前進栽培やクリーン栽培の推進、品種の多様化）
- ④食用百合（品質の向上、担い手の確保）
- ⑤メロン（作付面積の維持、ギフト販売など市場ニーズに対応した作型の拡大）
- ⑥花き（生産の拡大、品質を維持する出荷環境づくり）

### (2) 酪農・畜産の振興

- ①乳牛（生産の安定・拡大）
- ②肉用牛（安全・安心な肉牛の生産、安定した生産の継続）
- ③養鶏（総合的な衛生対策の強化）



## 3 芦別産品のPRと付加価値アップを進める

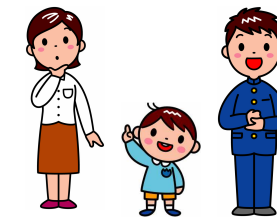
これまで主流であった道外出荷に加えて、道内での市場拡大をめざし、流通・販路の拡大に向けた調査や生産・出荷体制の確立、他産地との差別化が意識した付加価値の向上などを行っていくことが必要です。

### (1) 芦別産品の流通・販路の拡大

- ①マーケティング※2の推進
- ②グループ農業※3の活動推進
- ③芦別産品の周知・PRの推進

### (2) 芦別産品の付加価値の向上

- ①「安全・安心な芦別産品づくり」の推進（クリーン栽培、トレーサビリティ・システム※4への対応）
- ②農産物加工の研究、開発
- ③芦別ブランド、販売戦略の確立



## 4 「芦別農業」の理解を広め、連携を深める

芦別産品の市内での需要拡大を図るためには、芦別農業を広く知ってもらうことにより、より親しんでもらったり、利用してもらうことが必要です。

「地産地消（産消協働）」「食育」の取り組みを通じた普及や他産業との連携による相互振興などを進めていくことが必要です。

### (1) 「地産地消（産消協働）」の推進

- ①市内で購入できる機会の拡大
- ②教育・福祉機関等での消費の拡大
- ③定期的な販売機会の拡大

### (2) 「食育」の推進

- ①食育※5を推進する体制づくり
- ②食育を推進する場の拡大
- ③スローフード※6運動の推進

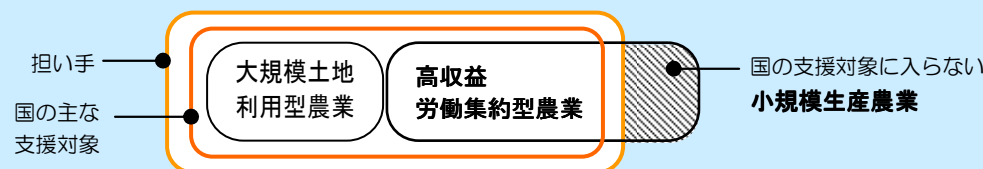
### (3) 他分野との連携によるビジネスチャンスの拡大

- ①農業観光の推進
- ②アグリビジネスの拡大促進



#### ※1 小規模生産農家：

この計画では、国の支援対策に入らない「小規模生産農業」を営む農家のことをさしています。



#### ※2 マーケティング：

消費者が求める商品・サービスを調査し、その結果をもとに供給する商品や販売方法などを決めることです。「作ったものを出荷する（売ってもらう）」から「消費者が望むものを生産し、売る」への意識改革などが必要とされています。

#### ※3 グループ農業：

グループ単位で市場性のある作物を選定し、販売活動を行う農業経営のことです。

#### ※4 トレーサビリティ・システム：

「トレース（跡をたどる）」「アビリティ（可能）」を組み合わせた言葉です。この計画では、スーパー等に並んでいる農作物が、いつ・どこで・どのように生産・流通されたか、消費者がいつでも把握できる仕組みをさします。

#### ※5 食育：

「食」を大切にする心や優れた食文化の継承、正しい食生活、「食」に関する正しい知識などを普及していくことです。

#### ※6 スローフード：

ファストフードに対して、イタリアで生まれた言葉で、画一化された味や食品ではなく、土地の風土に育まれた伝統食を大事にしようという運動。転じて、安全・安心な食材や加工品、ゆっくりと、手間ひまかけた料理などをさします。